

# 防災対策からみた地震調査研究

2002/10/9

内閣府 参事官(地震・火山対策担当)

# 防災は地震調査研究に何を望むか

- 被害像の基となる地震像を把握するための研究
- 地震の直前予知(事前現象の早期発見)の研究
- 地震や津波の発生特性(起こり方、余震等)の研究
- 活動度等の中期的評価のための研究
- マクロな切迫性の長期的評価

# 地震の長期評価の問題点

## 【全体】

- ・社会的に活用されるためには、信頼性(精度)が必要
- ・社会的に作用を及ぼす情報についての責任の所在
- ・国の機関としての評価は学会ではなく、権威のみ使われるおそれ
- ・基礎科学か？ 成果を活かすにはユーザーニーズからのアプローチが基本

## 【地震発生確率 < 特に活断層 >】

- ・難解で分かりにくいというよりは、それによりどのように防災対策を違えることができるか（確率が低い方には避難所は設けなくて良いという選択は妥当か）
- ・信頼性（精度）が必要（過去の数点での確率評価？  
学術 最新の知見を踏まえたものの選択  
実社会 ラフであっても作用に対し妥当性のあるもの  
鳥取県西部のように、活断層として未認識のもの？
- ・社会活動や政策の対象年数（数十年から百年？）との乖離  
活断層 千年から数千年間隔の現象の地球的誤差  
海溝型 百年等の間隔の現象の地球的誤差
- ・情報についての責任

## 【強震動マップ】

- ・全国の個別地域の地震動マップの基礎としては期待  
信頼性の説明は不可欠  
国レベルと地域レベルのマップの適正な役割分担
- ・全国概括マップの意味？
- ・信頼性(精度)が必要  
過去の実現象とのキャリブレーション  
モデルの考え方の妥当性  
データの信頼性、妥当性
- ・情報についての責任

## 【確率地震動予測地図】

前記二つの評価の問題に加え、

### ・期待値の意味？

他の災害関係の防災マップでも？ 活用難

災害発生時は絶対論的一つのケースで発生、期待値マップ的に発生するものではないことの地域誤解



# 学術的調査研究と防災対策目的の直接的調査解析の特性比較

## 情報の責任所在の整理

以上について分析、整理し、時間的戦略についてもまとめる。